

1月になりました。

年末年始のご挨拶もできないうちに既に成人式も終わっていました。
数少ないであろう読者の皆様にお詫び申し上げます。

今年3回目の成人式を迎える私ですが、
年末お風呂の中で「来年60歳か・・・」とボーっと思った時、
突然「子曰く、吾十五にして学を志す・・・四十にして惑わず・・・」
と夏休みの宿題で覚えさせられた孔子の論語が頭に浮かびました。
がしかし五十までは思いだせたのですが、
肝心の六十以降がさっぱり浮かんできません。



「あーこれが60歳という事なんだ！」とあらためて実感したのであります。
六十以降は意味もあいまいだったので、検索し続けていると・・・
四十の段階で私の理解していた意味と「違う解釈がある」??というコメント発見
へI??40歳になるとそこそこ生きて、知恵や経験も増え色々迷わなくなってきた
50歳にもなると自分がなにをすべきか理解できて目的もわかった。
あと少し 長くても20年あれば悟れちゃうぞ!という流れの教えではなかったの?

新説?では「不惑」の「惑」という文字が孔子の時代にはまだ存在せず、
わくは「或 ワク」という文字に置き換えられる。
その「或とはホコを持って何かを区切るさまを示している文字。
土ヘンをつけると地域等となり「國」=国区切を意味している」確かに区切り感を感じま
す。

その「或」として「四十而不或」と書くとその解釈が・・・

「40になったら、今までのワクにしがみつかず

「領域」にこだわることなく、新しい事に向かって行くのが大事」ameblo 説より
と言う解釈説が成り立つとありました。 ウーン??どうなんでしょ!

私はやっぱり「60歳で赤いチャンチャンコ。現役引退」と言う時代に新説の様に
40歳で新しい挑戦はありえない気がします。「年よりの冷や水」という諺もあります。
やはり「不惑」は習った通り「四十にして迷わず」という解釈だと思いました。
ですが・・・現在の様に80年超の時代の今、70歳で欲は吹っきれませんし、
「悟って死ねません」と感じる60歳がここにいます。

私の個人的な論語現在バージョン人生訓としては、

「40歳で自分の世界や領域を決めつけない。50歳では新たな世界を見つける。
60歳になったら、様々な方の情報や意見、その言葉に素直に耳を傾けるようにする。
そして70歳になったら常識や道理をわきまえてきたはずだから、食欲や金銭欲など
過度な煩悩的欲に振り回されず、生活できているなら

「自分の心に従って望む行動、生き方をしても良い!」「きっと大丈夫
と言う老人へのエールだと解釈したいと思いました。

正月は冥途の旅の一里塚めでたくもあり めでたくもなし

数え年だと既に61歳となってしまった私ではありますが、
この様にお風呂の中でこの先20年どうやって生きていくのだろう?
未来はどうなるの?なんて考え、そして迷っております。それが
平成30年 B.C.2019 1月 60歳のつづやきでした。

